

青少年サポーターズネットふくおか

<http://www.ysn-fukuoka.jp/>

福岡県青少年課では、青少年の非行防止のための環境づくりを目的として、パトロール活動や悩み相談などに取り組んでいる地域団体やボランティアの情報提供や交流の場としてwebサイトを中心としたネットワークづくりをすすめています。

このサイトは、広く県内に様々な団体の活動のPRや団体相互の情報交換、協力の呼びかけなどを行うことにより、県内各地域での青少年を健全に育む取り組みが活性化することを目的として開設するものです。団体相互の情報交換の場としてご活用ください。

(事務局)

特定非営利活動法人 男女・子育て環境改善研究所
〒810-0041 福岡市中央区大名2-11-22-2F
TEL/FAX 092-761-4346
メールアドレス:info@kosodate-npo.jp

福岡県 生活労働部青少年課指導係

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL 092-643-3388
FAX 092-643-3389

FUKUOKAストリートホークス事務局

FUKUOKAストリートホークス誓いの言葉

私たちは「FUKUOKAストリートホークス」の活動に際し、

- 誠意と奉仕の心で取り組むことを誓います。
- ストリートの規範として、
スマートで毅然とした行動をとることを誓います。
- 小さなことに対しても、
大きな愛情を持って取り組むことを誓います。
- 無関心とたたかうことを誓います。

応援します!! FUKUOKAストリートホークスは、街の美化、安全の確保に努めています。



福岡市中央区舞鶴1-1-3
アクアパーキング内トレーラーハウス
TEL:092-771-0673(白木)

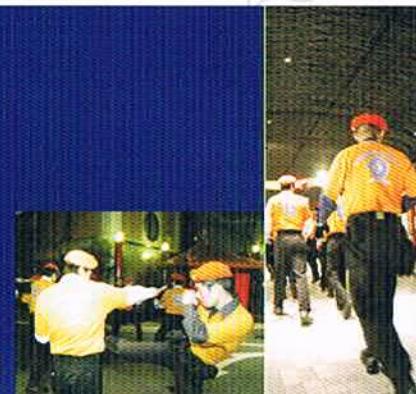
メールアドレス:info@street-hawks.com

<http://www.street-hawks.com/>

平成16・17年度

福岡県「青少年非行防止 環境づくりプロジェクト」報告書

～地域防犯活動に向けて～



FUKUOKA STREETHAWKS



防犯環境パトロール FUKUOKAストリートホークス

福岡県では平成16年度に「青少年が非行を起こしにくい環境づくり」をテーマとして、ボランティア団体・NPOが持つ知識、専門性、柔軟な発想を活かして企画を募集し、協働事業を行う「提案公募型事業」を実施しました。6団体の中から福岡市中央区を中心に地域の防犯パトロール、青少年への声かけ、環境美化等のボランティア活動を行っているFUKUOKAストリートホークスを選ばれ、これまでの経験を生かして、パトロールのノウハウを普及する市民防犯パトロール講座を始めとした「青少年非行防止環境づくりプロジェクト」事業を実施しました。

この冊子(報告書)はその事業の2年間の取り組みをまとめたものです。地域でのパトロールに際しての青少年への声かけ、コミュニケーションの方法など地域でのパトロールをはじめとした青少年の健全育成活動の一助となれば幸いです。

福岡県生活労働部青少年課

『FUKUOKAストリートホークス』は、地域の防犯パトロール、防犯への対処法の啓発、環境美化活動などを通じて、安全で、住みよいまちづくりに貢献することを目的に、2000年12月に設立されたボランティア団体です。活動内容は、天神地区を中心に、地域の防犯パトロール、環境美化活動(違法広告・ピンクちらしの撤去、路上の自転車・バイク整理など)、深夜徘徊中の青少年や子どもたちへの声かけ、小さなお世話活動(国内外旅行者への道案内、高齢者・障害者サポートなど)、防犯に関する知識の啓発などを行っています。

最近の日本国内の治安情勢の急速な悪化は、理由は多々あれ、一つにはやはりコミュニティの不在、他人への無関心の蔓延があるのではないかと考えています。

「青少年非行防止環境づくりプロジェクト」事業をはじめとした活動で、こうした地域における人と人のつながりを取り戻すことに少しでもお役に立てればと考えています。

防犯環境パトロール FUKUOKAストリートホークス

「青少年非行防止環境づくりプロジェクト」事業は、青少年参加型の地域防犯活動モデルを構築することによって、青少年自身の犯罪に対する意識を醸成し、地域の連携強化による青少年の非行防止環境を整備・促進することを目的としています。具体的にFUKUOKAストリートホークスでは、以下の事業を行いました。

1. 青少年のボランティア体験

FUKUOKAストリートホークスと一緒に、簡易な防犯ボランティアを実施

2. 市民防犯パトロール講座

防犯活動のノウハウ普及

3. 地域での防犯活動支援

地域で合同パトロールを実施、防犯マップの作成等の活動

4. 青少年健全育成シンポジウム

「いま語る! 若者を育む街づくり」



P1. ごあいさつ

P2. 事業の概要

P3.4. 防犯パトロール等を
始めようとする方へ

P5.6. 16年度 活動実績

P7.8. 17年度 活動実績

P9.10. シンポジウム

防犯パトロール 等を始めようと する方へ

1. FUKUOKAストリートホークスの青少年健全育成の考え方

社会をつくる根幹は教育であり、青少年の非行防止は住みよい社会づくりの根幹です。小さな犯罪の芽を放っておくと、より重大な犯罪に手を染める危険があります。また、社会的にモラルが喪失されると、そこで育つ子どもにとって、模範となる存在が失われます。

青少年が健全に育つには、「よりよいお手本となる周囲の大人の存在」「青少年が犯罪に手を染めにくい環境の整備」「青少年が自分自身を大切に、こころの醸成」が必要です。

2. 防犯パトロール等の活動を始めようとする方へ

これから防犯パトロール・青少年健全育成活動を始めようとする方々のために、活動のポイントについて、FUKUOKAストリートホークスの考えを簡単にまとめましたので、参考にしてください。

活動運営のポイント

防犯パトロール等を行っている団体は、みな同じような悩みを抱えつつ活動を行っています(例:資金がない。人が集まらない)。それでも「継続する」ということが重要です。活動が継続できるコツを紹介します。

<核になるメンバーが必要です> やる気にあふれたメンバーが複数いるかどうか、活動がうまくいくかどうかの唯一のポイントといっても過言ではありません。

<無理せず、できることをやるというスタンスで活動しましょう> 無理は継続しません。ただし挑戦する要素もなければ、マンネリ化します。バランスが大切です。例えば町内会で「毎日3時間パトロールをみんなでしよう!」と決めたとすると、これはほぼ間違いなく計画倒れになることはご想像の通りです。

<参加者がやりがいを感じる環境づくりも大切です> 若い人たちにアピールするにはかっこよさも重要です。

<多くの理解者・協力者も必要です> 自治会、商店主、警察、教育機関との連携を築きましょう。メンバーを集めるには、活動のPRも積極的に行いましょう。

防犯パトロール

上記「活動運営のポイント」に加え、以下のポイントがあります。

<活動のアピールとなるよう、目立つ形で行いましょう> 「防犯パトロールを行っている」ということを示すこと自体が、犯罪の抑止力になります。できるだけ大人数で、目立つ形で行いましょう。

<街の浄化につながる活動をしましょう> 防犯活動は屈強な青年だけが行えるもの、というわけではありません。いわゆる「割れ窓理論」に言われるように、単に、ごみ拾いや落書き消し、違法広告の撤去なども、立派な防犯効果があります。

※割れ窓理論(ブローケン・ウィンドウズ・セオリー)

簡単に言うと、「割れた窓を、たった一枚だと思って放置していると、次から次へ割られていく。逆にすぐ修理すれば、その状態が保たれる」という実験結果に基づき、「犯罪は芽のうちに摘むことが有効」であることを論証しています。ごみ拾いや自転車整理や違法広告の撤去は、ささいな活動のように思えても、防犯という観点からすると非常に有効な手段です。

パトロール時の青少年への声かけ(コミュニケーション)

防犯パトロールの際に、さまざまな場面でコミュニケーションをとる機会があります(例:深夜徘徊青少年への注意、「引ったくり注意」の呼びかけなど)。コミュニケーションは、相手や状況により、その方法は千差万別ですので、方法を机上の知識で学ぶことはできず、実践により能力を磨いていくしかありません。それでもいくつかの原則といえるものもありますので、紹介します。

<「命令・強制・指導」ではなく、まずは「友達」になり、「お願い」すること> 威圧的な態度や命令は、逆効果になり、トラブルの原因にもなりがちです。テクニックとして「相手の正面に立たず、やや斜め前に立つ」ことで、相手に抵抗感や警戒感を与えない、という方法があります。

<「話す」ことより「聞く」ことを重視すること> 自分の意見ばかりを押し付けるのは効果的ではありません。子どもに「早く帰りなさい!」と命令するより、「どうして家に帰らないの?」と、相手から会話を引き出しましょう。

<毅然とした態度でコミュニケーションを行うこと> 下手にでたり、大上段にでたり、自信のない態度を取ると、相手はそれを敏感に察知し、強気になったり、抵抗したりします。ニュートラルな態度で、ただし、毅然と話しかけましょう。

護身技術

護身=体術・武術(相手を攻撃すること)ではありません。

体術を使うのはやむを得ない場合あり、そのような危険な状況まで至らせないことが最も重要です。

いきなり人に対し暴力を振るってくる人は滅多にいません。ほとんどの場合、コミュニケーションの行き違い、誤解などによる感情の増幅が暴力行為につながります。

- ・いつ何時何が起こるか分からないという心構えを持つ。
- ・危機的状況においては「感情」ではなく、「理性」で行動する。
- ・人を見ただ目で判断しない。対人感覚・直感を磨くことで冷静な判断力をつける。
- ・スマート(知的)で毅然とした態度をとる。



16年度 活動実績

大牟田市3地区 青少年健全育成地域懇談会

- 1 実施日時：平成16年10月22日(金) 2 場 所：大牟田市労働福祉会館
- 3 参 加 者：大牟田市少年センター指導員連絡会ほか(約90名)
- 4 講座内容：「ボランティア活動による青少年健全育成」をテーマに講演を実施。学生各隊員から活動を通じた所感などを発表。防犯パトロールを切り口にした街づくりを提言した。

講演・護身術講義(福岡市中央区笹丘)

- 1 実施日時：平成16年12月11日(土) 2 場 所：笹丘小学校
- 3 参 加 者：笹丘PTA父兄、児童計約70名
- 4 講座内容：「地域と子どもたちを守るために、私たちに出来ること」を演題に、「地域の犯罪の現状」「青少年の薬物問題の現状と対策」「青少年を犯罪から守る」などのテーマで講演を行うとともに、簡単な護身術講義を行った。
・参加者からは「薬物の恐ろしさがよくわかった」「地域のつながり、家庭のつながりの重要性を感じた」との声があった。

防犯パトロール講座(笹丘校区PTAその1)

- 1 実施日時：平成16年12月11日(土) 2 場 所：天神周辺
- 3 参 加 者：笹丘PTA 5名
- 4 講座内容：笹丘PTAの父兄の方々と、夜の天神の防犯パトロールを実施。青少年相手の防犯パトロールにおけるコミュニケーション技術について技術交流を行った。
・パトロールでは通行者に単に声をかけるだけでなく、禁煙地区で喫煙している人にタバコを消してもらい、通行の支障になる場所に座りこんでいる青少年に場所を移動してもらいなど、より踏み込んだコミュニケーションを行った。「青少年に声かけをすることでトラブルにならないか不安」との参加者の声に対して「命令ではなく、同じ目線で話しかける技術を学べばトラブルは減る」と説明した。(※P7~10「パトロール時の青少年への声かけ」参照)

防犯パトロール講座(笹丘校区PTAその2)

- 1 実施日時：平成17年1月22日(土) 2 場 所：中央区笹丘
- 3 参 加 者：笹丘PTA父兄および児童約50名
- 4 講座内容：地域の防犯力向上により青少年犯罪を抑制する観点から、地域の防犯パトロール、違法広告の撤去、防犯マップの作成を親子とFSHにて行った。
・「ひったくり等の被害にあった場合どうしたらいいか」という質問に対し、「すぐに警察への通報をすること、自分がいる場所を特定すること。最近では自動販売機に住所を書いているケースが多いので、注意して見て欲しい」と説明した。

防犯パトロール講座(福岡市東区松島校区)

- 1 実施日時：平成17年1月29日(土) 2 場 所：天 神
- 3 参 加 者：松島校区防犯パトロール
- 4 講座内容：天神地区の治安の状況を合同パトロールにて確認したのち、情報交換、ノウハウの交換を行った。
・参加者の方からは、「FUKUOKAストリートホークスの活動趣旨、県事業の趣旨に賛同する」との感想をいただき、今後青少年を巻き込んだ事業への発展を呼びかけていくことを確認した。

講演・護身術講義(福岡市中央区森田修学館)

- 1 実施日時：平成17年3月10日 2 場 所：森田修学館梅光園校舎
- 3 参 加 者：森田修学館梅光園校舎
- 4 講座内容：森田修学館講師2名 中学生40名
・塾の中学生を対象に防犯講演会を実施。「地域の犯罪の現状」「青少年の薬物問題の現状と対策」「青少年を犯罪から守る」などのテーマで講演を行うとともに、簡単な護身術講義を行った。

青少年健全育成懇談会(古賀市ジュニアリーダーズ)

- 1 実施日時：平成17年3月12日(土) 2 場 所：古賀市役所
- 3 参 加 者：古賀ジュニアリーダー及び成人スタッフ
- 4 講座内容：古賀ジュニアリーダー(中学生ボランティアスタッフ)と成人スタッフと、FUKUOKAストリートホークスの活動内容の紹介と委託事業の概要について説明を行うとともに、協働の可能性について提案を行った。
・「中学生でも防犯活動ができるのか?危険では?」という質問が出たが、「落書消しをしたり、自転車整理をすることで、街の雰囲気や良くなることでも治安の改善につながる。また各人が身を守る知恵を身につけることは、犯罪の抑止力になる」と説明した。(※P9~10「割れ窓理論」参照)



[天神交番で情報交換]



[参加者と記念写真]



[犯罪・護身術についての講義]



[暴漢から身を守る護身術]

17年度 活動実績

福岡市東区青少年健全育成ブロック懇談会

- 1 実施日時：平成17年7月15日(金)
- 2 場 所：福岡市東区役所
- 3 参 加 者：青少年育成協議会・学校関係者 約20名
- 4 支援内容：東区各校区における防犯への取り組みや、小・中学校の現状を共有する場である同会合に出席し、ストリートホークスの活動内容の紹介、お互いの活動地域の状況について情報交換を行い、青少年への声かけ、コミュニケーションの仕方について、ノウハウを交換した。

東区宮崎宮放生会パトロール

- 1 実施日時：平成17年9月12日(月)
- 2 場 所：福岡市東区宮崎宮
- 3 参 加 者：地域の方 4名
- 4 支援内容：最近不良少年が集まる傾向がある放生会のお祭り会場である宮崎宮を、地域の方とともにパトロールを行った。
・一般市民に対しては、スリやひったくりへの注意を喚起する声かけを行った。
・「仮設トイレ前に暴走族がたむろしているの、何とかして欲しい」との依頼があり、現場に向かうと30名くらいの暴走族がたむろしていたので、「多勢でトイレ前にたむろすると一般の人が利用できないので移動して欲しい」と説明を行い、移動してもらった。(※P9～10「パトロール時の青少年への声かけ」参照)

護身術講義(古賀市ジュニアリーダーズ)

- 1 実施日時：平成17年9月24日(土)
- 2 場 所：県立英彦山青年の家
- 3 参 加 者：古賀市中・高校生 17名
- 4 講座内容：最近の子どもを狙った犯罪増加傾向に対する危惧から、中・高生に対し自ら身を守る護身術の講義を行った。
・危険を予知することが護身術以上に大切であり、一人歩きしない、暗いところを歩かないと言った事などを、講習前・後に繰り返し、認識してもらった。
・それにもかかわらず危険な状況になってしまった場合に対処するための護身術を行った。

講演・護身術講義(北九州ひびき青年会議所)

- 1 実施日時：平成17年11月10日(木)
- 2 場 所：北九州プリンスホテル
- 3 参 加 者：ひびき青年会議所メンバー 44名
- 4 講座内容：ひびき青年会議所の依頼により、メンバーへの防犯知識、護身技術の講義を行った。
・主に街頭でのトラブルの対処法について実際に体を動かし訓練を行った。
・質問タイムでは、「どこまでが正当防衛なのか」という質問がでた。
・これに対しては、非常に簡単に言えば、襲われた方が、襲った人以上の攻撃をすれば過剰防衛と見なされやすい。ただ判例もさまざまあるので、基本は護身術(体術)を使う状況にならないように、コミュニケーションで対処するのが重要」と回答した。

ボランティア体験(古賀高校)

- 1 実施日時：平成17年12月17日(土)
- 2 場 所：JR古賀駅周辺
- 3 参 加 者：古賀高校学生約20名(野球部員)
- 4 活動内容：古賀高校生徒(野球部員)とJR古賀駅周辺のボランティア清掃、自転車整理などを行った。
・ストリートホークスからは、ブローカーン・ウィンドウズ・セオリー(※P9～10「割れ窓理論」参照)に基づき、こうした清掃活動など地道な活動がいかに重要であるかについて学生に説明を行った。

青少年健全育成シンポジウム(詳細は7～8P)

- 1 実施日時：平成18年2月12日(日)
- 2 場 所：西日本新聞会館
- 3 参 加 者：地域の方 約80名
- 4 講座内容：各地域で青少年健全育成活動を行っている方々を招き、代表地区の事例紹介を行うとともに、県警、県青少年課を交えたパネルディスカッションを行った。

講演・護身術講義(大牟田市ありあけ新世高校)

- 1 実施日時：平成18年2月14日(火)
- 2 場 所：県立ありあけ新世高校
- 3 参 加 者：ありあけ新世高校3年生 300名
- 4 講座内容：今春高校を卒業する生徒たちを対象に、昨今の青少年犯罪の状況、とくに覚せい剤や麻薬についての実情を説明した。
・また、今回女子生徒が7～8割を占めていたので、若い女性が巻き込まれやすい犯罪(婦女暴行・売春・ひったくり等)についても説明し、生徒たちの防犯意識を高めることができた。さらに、女性でもできる簡単な護身術として、腕をつかまれた場合と、背後から抱きつかれた場合の対処方法について、実際に生徒にやってもらうことでの講習を行った。

●その他 教材の製作：以下の防犯啓発用のテキストを製作した。

- 「青少年のための防犯活動実践テキスト」…青少年防犯活動のための基本テキスト
- 「防犯活動実践教本」…大人と青少年が共同で防犯パトロールを行う際の教本
- 「福岡薬物乱用の現状」…福岡における薬害、薬物の恐ろしさをまとめた
- ハンドアウト「親と子の防犯 基礎の基礎」
- 護身術(体術)マニュアル
- 「救急救護テキスト」…防犯パトロール時に救急救命が必要となった場合のためのテキスト



[防犯・危険マップを作成]



[防犯・危険マップを作成]



[天神の夜間パトロール]



[ピラ撤去]



[護身術の訓練]

「いま語る! 若者を育む街づくり」

少年非行についてパネリストと参加者が一体となって考えた青少年育
「青少年非行防止環境づくりプロジェクト」の一環として福岡市内で、防
代表の方に集まっていたいただき、青少年を取り巻く環境と未来について、

成シンポジウム。
犯をはじめ、様々な取り組みをされる
有意義な意見交換を行いました。

[青少年健全育成シンポジウム]

日程:2006年2月12日(日)
会場:西日本新聞会館国際ホール
主催:FUKUOKAストリートホークス
福岡県生活労働部青少年課



1. 開会挨拶

福岡県生活労働部青少年課 指導係長 森尾隆行

2. 青少年健全育成活動事例紹介

【事例発表1】できることから始めよう! 地域住民による見守り運動

広域安全推進実行委員会代表 金子昌隆氏

「できることから始めよう」と熱く語る金子昌隆氏は、児童は保護者の監督責任、だからこそ親である私たち自身が目を背けないことが大事だということを訴えます。「シンナー吸引、覚せい剤、車上狙い、自販機荒らし、オレオレ詐欺などが発生している中で、福岡県は少年のシンナーの乱用は、5年連続で全国1位。覚せい剤の乱用も全国でも高水準。年齢は8~19歳。数多くの少年を巻き込んだ犯罪が発生している現状を忘れてはなりません。今、どこで何が起こるかわからない、そうした現実を目の当たりにしていることを実感してほしい」と、取り組まれる地域運動は、保護者や地域住民による見守り運動です。「見守り運動とは、ただ見ていることではない。互いに挨拶をしてください」とアピール。さらに、防犯の笛やベルに頼らずに声を出すことの大切さなど、具体的に地域が一体となって子どもを守る取り組みを挙げました。

【事例発表2】ステッカーだけの安全よりも、生きた活動を

岩戸北おやじの会 会長 石橋謙二郎氏

那珂川町で「親児の会」を作り、保護者からおじいちゃんやおばあちゃんまでもが喜んで参加してもらえるような会を作っています。様々な活動の中、まず、子供110番の家を見直しに取り組みました。親子でクイズを解きながら、「子供110番の家」をチェックし、自分の通学路のコースを回る形のイベントを行った話では「子どもたちが『子供110番の家』がどこにあるかまったく知らなかったというのに気がきました。また登録しているお店自体も忘れられていました」と、200件近くを登録更新。「子どもたち自身に何かあったら遠慮なく飛びこんでおいで、というのを意識させていかなければいけないと感じました。小学校のPTAと一緒にリストを全部見直し、1件1件再訪問しました」という報告の後、子どもを犯罪から守り、将来的に子どもが悪さをしようと思わない町にしなければいけないという、地域に密着した活動の志と継続を訴えました。

【事例発表3】コミュニケーションの持つ本当の意味を広げたい

笹丘小学校PTA会長 田中克典氏

街頭パトロール、登校の指導、地域防犯マップの作成、110番の家など、地域に子どもたちの見守りをお願いする活動を展開。同校区では小動物虐待事件があり、一瞬パニック的な状況に。そこで防犯マップを見直し、防犯シュミレーションの体験を行います。「自分の知っている危険情報を、その場で教えあい、マップにその情報を落して、危険情報の共有化を図りました」。そこから広がる情報と人のネットワークの力に新しい発見があったといいます。「FUKUOKAストリートホークスさんの天神の夜間パトロールで勉強させていただき、そこで出会ったのが、「コミュニケーション」。「言葉」でした。対等な立場で、相手をすべて受け入れる。それが基本。これができればすべての人ととのコミュニケーションがとれると思います」と話されます。その後、小学校の親が学校の腕章を日常につける「動く110番」という運動にも発展しています。

3. パネルディスカッション

パネラー ■石橋謙二郎/岩戸北おやじの会 会長 ■金子昌隆/広域安全推進実行委員会代表
(敬称略) ■近藤光正/福岡県警察本部 生活安全部少年課 課長補佐
■田中克典/笹丘小学校PTA会長 ■森尾隆行/福岡県生活労働部青少年課 指導係長
■司会/水城四郎 防犯環境パトロールFUKUOKAストリートホークス理事

[近藤]:H16~17年の状況報告。福岡県の青少年の検挙者数、H17年8,980人。H16年10,664人で、全国4位。H17年検挙の約4割が少年。街頭犯罪(車上荒しなど)は3千人中の約7割を占める。窃盗犯5割、タバコ・飲酒・深夜徘徊7万4千人を捕縛。H17年で3年連続非行者率全国1位に。少年千人当たり17.2名が非行者。東京は11.2名。高知は約15名。シンナー検挙数は6年連続で全国1位。全国の約3割が福岡。犯罪認知件数はH14年の17万件からH17年10万6800件に。しかし検挙率は15%から31%。県下のボランティアはH16年では116団体だったのがH17年には312団体と大幅に増えた。青色バトカーは県内136台。これは国がボランティアに動かされた結果だ。

[森尾]:非行問題というもの知らない大人が、非行イコール暴力やひったくりであるとイメージしてはいけない。実は1万6000名あまりの少年犯罪の中で、大体8割位は万引きと自転車泥棒です。ただ、この犯罪を契機に、重い深刻な非行に走っていくと言われているため、県も前向きに検討して積極的に運動をしています。

[金子]:子どもたちの声を聞く余裕がない人が多い。そして聞いても、なるほどなどと言えるような、子どもが感じるような言葉を出し切れていない。いつも命令語だから、コミュニケーションがない。会話がな。

[石橋]:地域の老人会とか、育成会とか、色々なボランティア団体と連携をとって、活動してきているんなら子供たちと顔見知りになって、それで大人たちもお互い顔の見える地域になって会話のできる地域になってくれたらいいなと思って声を掛けています。

[田中]:知らない人についていっただめよっていいですが、子どもにとって、知らない人って自分の親以外はみんな知らない人なんです。そんな地域の中で、コミュニケーションによる地域の見守りがあれば、子どもたちのちょっとした言葉や行いに目を向けることができるのではないかと手応えを感じています。

子どもたちの危機管理や集団下校の話、非行の誘いの断わり方など、今後の活動の充実において、各地域や団体の交流、情報の共有などが重要であるという認識を共有しました。

